

— 今月のこの人 — 【町で活躍する人や団体を紹介します。】

「第22回四国高等学校新人陸上競技選手権大会」で三段跳びに出場し優勝した南宇和高校陸上競技部の秋場瑚百さん



愛媛CATV
動画

三段跳びとは？

陸上競技の跳躍種目の一つで、助走後3回の踏み切りを経て着地します。踏み切り板で踏み切り（ホップ）、踏み切った足で最初の着地をし、その足で跳躍（ステップ）して反対足で着地、そのまま3回目の跳躍（ジャンプ）をします。連続した3回の跳躍を行ない、その距離を競います。

10月17日(土)と18日(日)に松山市の愛媛県総合運動公園陸上競技場で行われた「第22回四国高等学校新人陸上競技選手権大会」の三段跳びにおいて、南宇和高校陸上競技部の2年生の秋場瑚百さんが14メートル20センチの記録で優勝しました。

秋場さんが陸上を始めたのは高校に入学してからで、「自分の個性を跳躍に出せるので、それがとても楽しい」と三段跳びの魅力を話します。

競技をする上で、「試合に万全な状態にもっていくことが難しい」と話すように、食事の取り方や練習の仕方などを意識し、試合で全力が出せるように気を付けています。

今大会では、3本の跳躍の後、上位8人がさらに3本の計6本の跳躍を行いました。5本目を跳んだ時点では2位でしたが、最後の6本目で逆転し見事勝利を収めました。大会の感想について、「途中までは負けていたが、スタンドから仲間が応援しているのが分かって、最後までがんばることができた。チームで勝ち取った勝利だったのでうれしい」と喜びを話しました。

今後の目標は、「新型コロナウイルス感染拡大の影響で、大会や合宿が中止になっているが、逆境に負けず、来年のインターハイで優勝するために練習をがんばりたい」とやる気を見せました。



▲グラウンドで走り込み練習を行う秋場瑚百さん



▲大会で三段跳びをする秋場さん

編集後記

油絵教室「風の会」取材しました。創始者が牛鬼の木版画で有名な宇和島市出身の画家・兵頭俊朗さんであることや、その兵頭さんが会の設立当時は御荘中の教員であったことなど、多くの発見がありました。

また、現在会長を務められている加洲至さんは、私が高校生の頃にクラスの副担任としてお世話になった方です。約20年の時を経て、このように取材ができたことを大変うれしく思います。

南宇和高校陸上競技部と三段跳び種目で四国大会を優勝した秋場瑚百さん取材しました。

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、十分に練習はできなかったのですが、仲間の応援があって、最後に逆転優勝することができたと話した秋場さんと仲間の関係に感動しました。

次の大会で、部員全員が良い成績が出せるように、冬期練習をがんばってください。

愛南町の世帯数と人口

令和2年12月1日現在

世帯数	10,220世帯	(-4世帯)
人口	20,538人	(-27人)
男	9,720人	(-16人)
女	10,818人	(-11人)
愛南町の高齢化率	44.3%	

※ () 内は前月比

●10年前 同月の人口 25,364人

編集・発行

愛南町役場 総務課 〒798-4196 愛媛県南宇和郡愛南町城辺甲 2420 番地 電話：(0895)72-1211 FAX：(0895)72-1214
<https://www.town.ainan.ehime.jp/>